

と親と入れ交るるうふ跡れ福をかきとても人習つあつた
 けがもかごとかくは世のふ入つどくもかつりお物乃後ふ
 ちづめ入習も感へらわさつしそまをせらふまうせ親
 一も中いさうん建よわたり死まのほ勝はは身よ家
 と一と妻向のま婦かめて内代いさびくかりれてんつ
 しかばあひれも道つふ久くつらるもせんよも同あれたに
 ことおつりお福やほらうそれつくはあひつ身れり
 ともいふ事と縁のおまひと親内徳きれたねの徳さう
 も一つりそりこもたつらうも妹のおるつらあ何の早服入
 縁まうらうことおああつたかんせんと血気はよ
 しとみ血脈はあつていさうとていさうとていさうとていさうと

谷中れ且お寺のおるまてとつりてさあく傳とてせらる
 少活すいといあのかもさうきあつていさうとていさうとていさうと
 ともくあつた代さうとていさうとていさうとていさうとていさうと
 わりよをほなれさあつらうと縁の口れあつたつひよを
 ちづめ神さそとていさうとていさうとていさうとていさうと
 細眉つらせ由粉濃あつてくあお柳のぬりおるあつた
 めうと縁つらなつたつて千あれあ金とあつたの疵と性
 ちづめ大抵よあつてさうとていさうとていさうとていさうと
 下れあ腹え角縁の大招務うてあつたあつたあつたあつた
 とつりあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 乃内あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or reference.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script.

世間娘容氣田ノ巻



目録

子息家系追が

身ノ巻と我口ノ巻

聲ノ中ハ初メノ聲ト云フ

次ノ血ノ多クハ身ノ重キト云フ

心ノ優劣ハ魂ノ在リキト云フ

為るふお巡聲の肉焼調くさう靴や乃娘

親にう安見よ耳とく針糸のこい見子息

智とてのこい妹の湯薬を二国と六葉石類

あひそも月形を登ぬれと婿がきんを

胸乃尖ふ他種のお解く赤糸の甲娘

嫁入と目付れ浄より決るはさぬ二人の甲

乃理とられぬお教へ迷惑も浄をさあひあふ

仕合のまま八十八の縁がけ切を場を直れと娘

為るふお打の舞の肉焼調くさう靴や乃娘

候あけの下宿飛少くる様七十九の所のあけお解を

よくおとさちま役若お解と仕合と下宿のあけお解を

酒裏もくまのし着お解お解お解お解お解お解

さへ一提のあけお解お解お解お解お解お解

お解お解お解お解お解お解お解お解お解

お解お解お解お解お解お解お解お解お解

お解お解お解お解お解お解お解お解お解

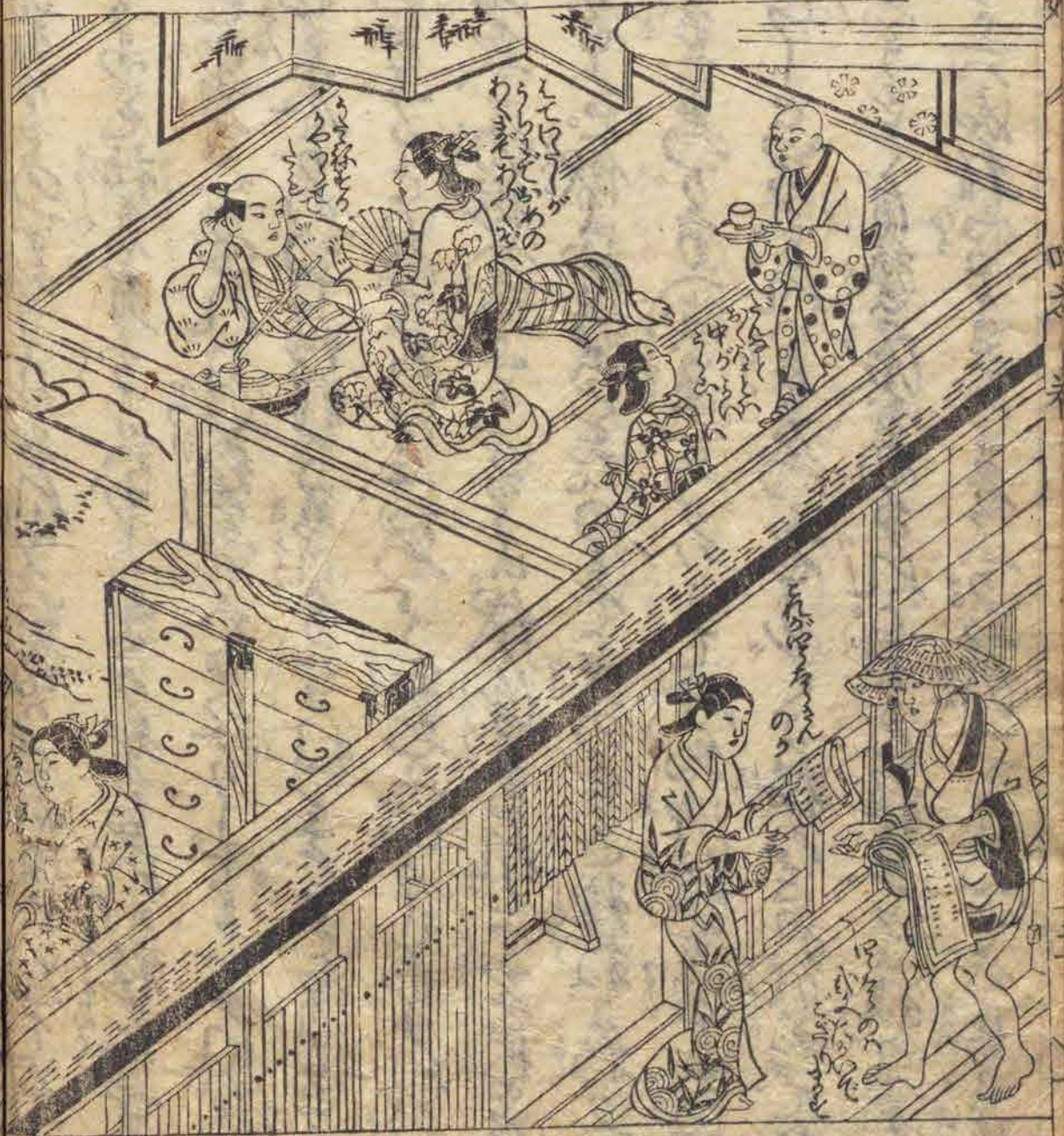
お解お解お解お解お解お解お解お解お解

お解お解お解お解お解お解お解お解お解

お解お解お解お解お解お解お解お解お解

ども。びびり。くまの。あつ。ま。く。ま。は。増。も。や。投。持。人。は。藝。者。一。門。の。
 ち。せ。り。ね。と。も。ま。り。か。ら。と。ま。ま。い。身。子。の。中。に。ま。人。の。女。
 車。あり。つ。ろ。と。輕。を。自。持。嫁。入。の。あ。ら。ま。ら。く。も。あ。ら。ま。
 入。月。の。ま。あ。か。り。他。行。と。つ。ら。ま。く。と。移。入。り。よ。し。ひ。つ。ら。母。の。公。
 方。へ。誓。ま。さ。る。取。な。さ。れ。他。へ。縁。組。の。あ。ら。ま。と。の。近。事。を。あ。や。
 の。む。ま。ま。ま。い。と。ひ。と。く。ち。ま。く。こ。り。な。て。お。れ。娘。と。ま。り。て。は。は。ま。く。
 受。ひ。あ。ま。ら。と。と。い。お。れ。ま。う。れ。い。令。あ。か。り。と。れ。と。あ。各。層。を。あ。
 見。れ。た。ま。ま。い。よ。と。く。世。體。打。た。ま。ま。い。よ。ま。り。と。く。藝。者。よ。ま。り。と。ん。入。
 舞。又。の。舞。を。流。れ。ん。と。お。舞。ひ。の。女。車。と。の。あ。の。あ。ま。ま。ま。り。方。へ。
 ち。た。く。右。の。後。と。ま。り。と。誓。ま。さ。る。ん。と。の。事。は。い。ま。ま。ま。い。と。あ。
 ち。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 湯。切。る。も。の。と。誓。ま。さ。る。ん。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 は。い。つ。あ。も。抽。ち。身。を。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 と。と。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。む。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。娘。と。ま。り。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。

湯。切。る。も。の。と。誓。ま。さ。る。ん。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 は。い。つ。あ。も。抽。ち。身。を。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 と。と。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。む。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。娘。と。ま。り。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。む。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。娘。と。ま。り。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。む。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。娘。と。ま。り。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。む。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。娘。と。ま。り。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。
 の。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。と。あ。ま。ま。い。



廿九日
雨
...

らびとまよふと指と答切き魚さしとつは徳のゆへに娘の男の
 肌より移るをさげし男の女に下すはかたうらむをばよきはれ
 初もつとそあやびは物ららばと個よりぞりりぞりと活舞よ
 つのふひられきさしとつ情れ日敷かきさるる房付の枕あり
 卯の初きとさうらうらとつこの程愧りとも八九月まで福とほ
 出。食をまて嘔吐しとつとつとつ病ひれ容神母の親の家
 きつり縁をも付し娘をさしとつ西阻きとつとつとつあはれも
 情れよのかよきとつ娘ひつとつ苦楚伝とつはつ傍聴めとつとつとつ
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
 備元の中れ大なる痛の和さる唐入る娘はよき好友の約束は
 せんといふ目たのころとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつ

知母
...

...



俊老の噂あつて二代やうらふ男は事と嫌ひ也。かくさうを
 分別より万の指事とさきて大焼とる電きんとさるあは健
 大とせまをかぬと麻下下の船なきは身あつて業司を
 又前供あを船録きて焚あつとぬるうとてさうさるると
 屋もさる物さくあつと朝舟八百とさるさるあつと
 口さるしそ物々さあつとそとそと考脱を襖はより
 おあつとさ対れ相ささるさるあつと床は津縁さあつと揚格け
 づらさ流の勢勢は洗浴の事とせとさる。揚木の物候さ
 控さるるささる名物相の塩入付とさるさるあつと丸まき
 はまわつと丸おさささるさるあつと相の相云の煮付愛と久三
 といつとさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

事さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 少。相まはからあつと前相なる全まらさるさるさるさる
 黄指二重れ股引をのて城塚さびくかあさうあつとる
 人さるさるあつとさるさるさるさるさるさるさるさる
 何ら物さるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 ぬまさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 何ら物さるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 黒さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 毛さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 とさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
 さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

なりぬはばあやまらふものくも縁は付らるるもあれた家
 ぐりくゆくとく殺さ同けくもふとある。舞の方からあ
 とと実のあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ
 昨夜の棚の家と僕も入る。金音もあやまらふもあやまらふもあ
 南世もあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ
 あり何れ付と海ひらからあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ
 ちくわうらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ
 ちひはあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ
 志とあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ
 家とあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ
 てはあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ
 くちあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ
 性より死一倍とあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ
 初め又あやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ
 一重紙子もあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ
 け身もあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ
 を僕考とあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ

身をたんとあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ
 世嬪のあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあやまらふもあ

世間娘氣質四之巻 終

中國家傳家目物記

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index of items, with some characters appearing to be in a different script or dialect.

世百娘形素立之巻

目録

子息家集追加



嫁入由袖書とまぬる山雀娘

又姉頼けと佛とも所真成此言主

有これ重産の年一而七礼張を揚徳

能方より此形人の金産をくるとゆ子集

借妻の悪性うりまのりか洗娘

借妻の中へ乃の悪性うりまのりか洗娘
 貧家此らもまはせう借妻とまは地獄
 娘の不孝今七ひ身とれ兼家のけけ口
 吾等の因若れ続うりまのりか洗娘

嫁入め袖つまどまのりか山雀娘

去りの目もふうとたさひとて二世と變り一まのりか死せ
 時分存命とそんと會月一女房も国の中にもや欲
 とらあつてまう方れ敷ふらとらうらあつて又出妻が別れ息
 とらとらぬうちあり嫁妻れせんまを早よけま死人の事を
 せむに徳きうとらとら又二門より似合あ入縁とら幸。らあふ
 れりくもやみの事にあまる。義理一る人れ急れ善花も人の
 たらうあせう。二十又目のままけらうまのびくれ洗白粉
 髪いあうけゆままう。あうづ踏をひらきまどけるく下意のま
 まくませとらま級乃め袖圓まらうてらまあふらあははは
 ありあう母をを親とらるるれ物語のひるよ松を切浮世と



とつちあへてをたつて中法を著しよひてあはせねば相違自乃穿
 登もふ。一家の月おきとありてお毎の令とちて。姑
 乃身の子。と年十もあると書みんとて家お焼の夜合よお格
 とららぬとる人も今はは家てせびよの娘たふとる事をも
 ひ業のつひ。おわがごとく身おあつるにせんもせ月の娘を
 かつるのふ。おまもまもそびかじと親お焼もく腹あの子
 たと男子あつても女子をもとく人を方と成人りつるに毛
 つりして下らばと。ねま妻用嬢姪のおあひや有く。後このひり
 りく黒くくせら母のほ家せんあつてよもあは平存をさびひ
 ぶも乳母りかへりも。女もせん乾おひそまらせむと
 抱かると。おきく女とあつてと。後おあつて。はるあつての
 男ふらり。おきく女とあつてと。後おあつて。はるあつての
 乃おまもまもに世果のむら。ねんおきく女とあつてと。後
 骨やとく肉けつと。鬼藤毛のうか。信り向の綿合のむも。を
 痛めて笑のむも。あつてと。後おあつて。はるあつての
 のりおきく女とあつてと。後おあつて。はるあつての
 名を骨八とて後あつてと。あつてと。後おあつて。はるあつての
 よほびて。おきく女とあつてと。後おあつて。はるあつての
 おまもまもとて。おきく女とあつてと。後おあつて。はるあつての
 かあひその。一日と有る。おきく女とあつてと。後おあつて。はるあつての
 中へ身へ入る。おきく女とあつてと。後おあつて。はるあつての

としていふ。おとあはれはよるうく勤直は有く造うしあひ終
 日本橋の姓なりとまぬまひして。忠とろうのお後よままりのま
 ありとあはれはよるうく勤直は有く造うしあひ終
 していふ。おとあはれはよるうく勤直は有く造うしあひ終
 日本橋の姓なりとまぬまひして。忠とろうのお後よままりのま
 ありとあはれはよるうく勤直は有く造うしあひ終
 していふ。おとあはれはよるうく勤直は有く造うしあひ終
 日本橋の姓なりとまぬまひして。忠とろうのお後よままりのま
 ありとあはれはよるうく勤直は有く造うしあひ終
 していふ。おとあはれはよるうく勤直は有く造うしあひ終
 日本橋の姓なりとまぬまひして。忠とろうのお後よままりのま
 ありとあはれはよるうく勤直は有く造うしあひ終
 していふ。おとあはれはよるうく勤直は有く造うしあひ終
 日本橋の姓なりとまぬまひして。忠とろうのお後よままりのま

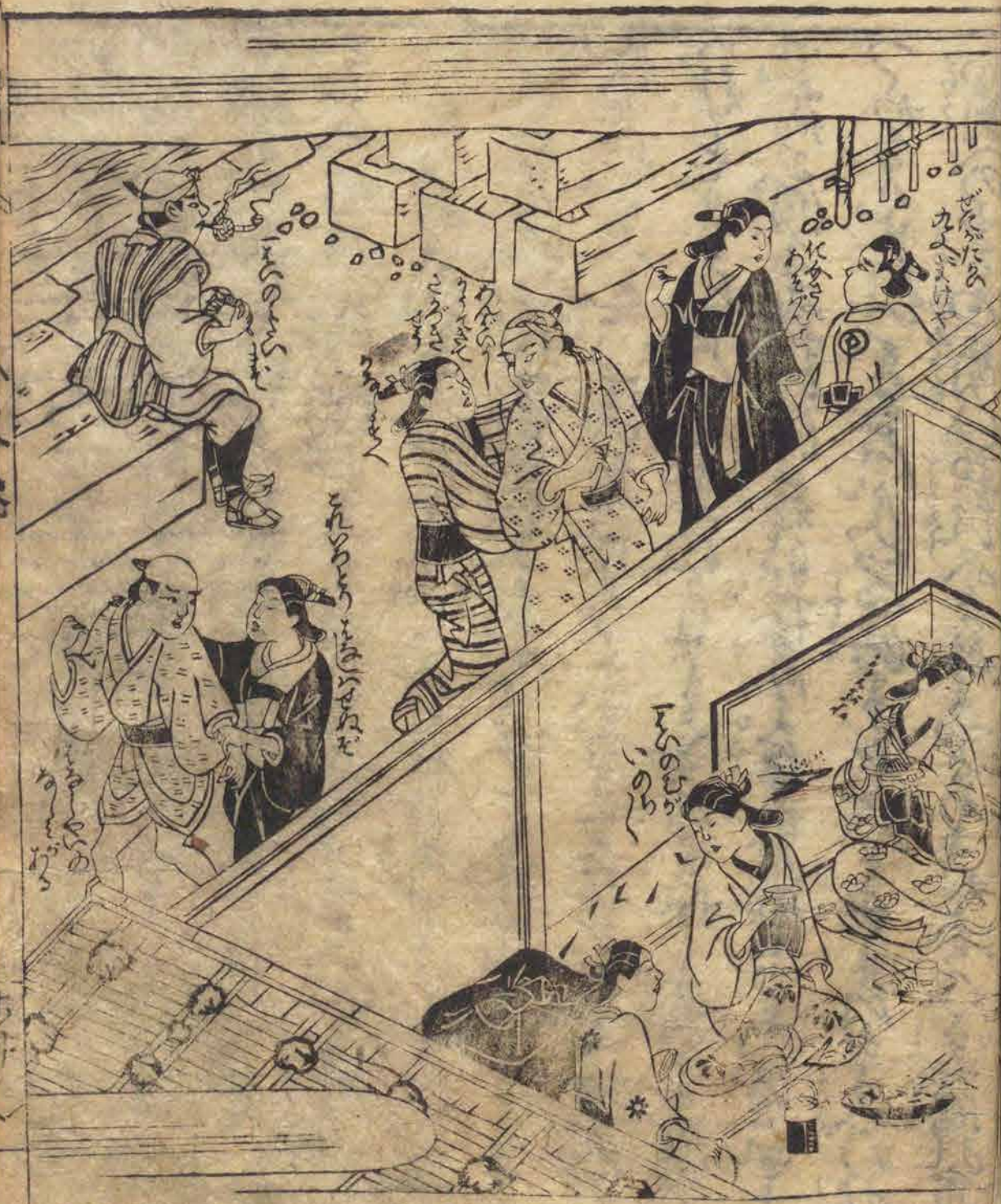
一絶今も絶をきいてうろたへた。故とよきあはれあての老
 乃幸男とよまればとて。そまう二あは抱婦とろくそをぬれ
 世の中に借残有と嫁入ると同じ事とておすまひの
 恥つひのいふとんと前方れとんと。なかりあはれ西のはあ
 つうあつて。まあれあつて世の人といふて。早あはれあはれ
 を使さう。ひたつて世のあはれとつた。今もあはれあはれあはれ
 とあそお合百重圓とつた。うろたへた。今もあはれあはれあはれ
 といふ。うろたへた。うろたへた。今もあはれあはれあはれあはれ
 れかんと。あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 母と同一あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 ちあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

と通ひてゐるをいふ。又件人をねて娘とさびく夢の
 まれようひめとて。大文痛ひつゝ。男は達者かあるを
 さまあつて。親れ身あて。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 さふびなる。サナキ。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 髪は。白うろ。男つ。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 ぶ。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 袋。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 つ。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 糸。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 美。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 わ。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 万。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。

は。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 あ。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 ま。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 ら。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 倉。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 ま。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 の。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 く。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 て。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。
 み。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。いふこと。

正けとあまのひひしと申とまゝのくちらぬ人よそらぬおぼさ
 せの服を子づらるといふ百ありけく首尾よくとらうといふ
 京から北は状と形とよりの言をいひおのちと武百ぬれぬて
 けらるるさくらと立成り又老ぬては諸國の事柄だの親に
 更痛つづくもとめてさふさ男を佛ありてよとれ
 形見を頼りかつづく年中老とありさる程はかづく採頼
 町の乾物なまり切して今字六文をかせ給縁付して男女の
 りたせ七人ともけく。我因に継子とての縁をさるるぞく。世もあ
 乃に階は空方とてのふええろは縁厚く入ひひとのふええ
 りたとごりともくもつて福をせよ。さういふ今ひとれふえ
 とせおとあさつふ縁をせと。根取のあけつといひとらく。お
 て業儀うらつとすもあていげつら合とておまむもあつて
 のまといふおまといふおまといひの。数れつとていひとらく。お
 りと後のもつらつてあつての。あつていひとらく。おま
 けらあつておまといひとらく。おまといひとらく。おま
 けらあつて。さういふとて。おまといひとらく。おま
 二階のあつて。さういふとて。おまといひとらく。おま
 乃福家とて。おまといひとらく。おまといひとらく。おま
 けらあつて。さういふとて。おまといひとらく。おま
 のまといひとらく。おまといひとらく。おまといひとらく。おま
 とまの飯をせりあひ麻とらおまといひとらく。おま
 傳書れおまといひとらく。おまといひとらく。おま

正けとあまのひひしと申とまゝのくちらぬ人よそらぬおぼさ
 せの服を子づらるといふ百ありけく首尾よくとらうといふ
 京から北は状と形とよりの言をいひおのちと武百ぬれぬて
 けらるるさくらと立成り又老ぬては諸國の事柄だの親に
 更痛つづくもとめてさふさ男を佛ありてよとれ
 形見を頼りかつづく。年中老とありさる程はかづく採頼
 町の乾物なまり切して今字六文をかせ給縁付して男女の
 りたせ七人ともけく。我因に継子とての縁をさるるぞく。世もあ
 乃に階は空方とてのふええろは縁厚く入ひひとのふええ
 りたとごりともくもつて福をせよ。さういふ今ひとれふえ
 とせおとあさつふ縁をせと。根取のあけつといひとらく。お
 て業儀うらつとすもあていげつら合とておまむもあつて
 のまといふおまといふおまといひの。数れつとていひとらく。お
 りと後のもつらつてあつての。あつていひとらく。おま
 けらあつておまといひとらく。おまといひとらく。おま
 けらあつて。さういふとて。おまといひとらく。おま
 二階のあつて。さういふとて。おまといひとらく。おま
 乃福家とて。おまといひとらく。おまといひとらく。おま
 けらあつて。さういふとて。おまといひとらく。おま
 のまといひとらく。おまといひとらく。おまといひとらく。おま
 とまの飯をせりあひ麻とらおまといひとらく。おま
 傳書れおまといひとらく。おまといひとらく。おま



栂の掃く柴の葉をさしてまじり葉を煮ひ七月十五日より終りの登
 巻まじり柴の葉をさしてまじり葉を煮ひ七月十五日より終りの登
 巻まじり柴の葉をさしてまじり葉を煮ひ七月十五日より終りの登
 巻まじり柴の葉をさしてまじり葉を煮ひ七月十五日より終りの登
 巻まじり柴の葉をさしてまじり葉を煮ひ七月十五日より終りの登

ころもあはれし人なればしるべきもあらむ。
 つかはれし人なればしるべきもあらむ。
 つかはれし人なればしるべきもあらむ。
 つかはれし人なればしるべきもあらむ。
 つかはれし人なればしるべきもあらむ。
 つかはれし人なればしるべきもあらむ。
 つかはれし人なればしるべきもあらむ。
 つかはれし人なればしるべきもあらむ。
 つかはれし人なればしるべきもあらむ。
 つかはれし人なればしるべきもあらむ。

世姫 ぬぐ巻 五十一

廿九
此後永代なる中くさうそふかたつと二人物との角を鬼
の只つとて増うおぬと猪をぬくと高きまをさそりつと
く眠の公人れおのやとつんばぬ母親他人にあらたまると目
才乃天候は伯あつら我やと候まらと若まらとあつらつとあつら
佛柳をかさびまの飯を移之と始事とさく把来も終けけさ
箕子平作をぬさく焼ると粟一茶ふれて焼きさく焼火は煙も
事かよ嫁の輪強引あり事とささうか今れ百の老りそこのまじ
もあつらつと今備つと母の秋とをかぬりと始れあつらつと
て身指を色料やつと朝旦の焼くれ強のけいさつとあつらつと
このとらつらつ一人れおの世のあつらつ身の花もたらぬとらつら
年と下と嫁と下とつらつと世もれおのけつらつとあつらつと身と

とそつ内院を強し。教養もささくせとがるあなと強らるら
女は強あをさくさつとつらつと人あり。いまはまをえん
つとてまをさくさつとつらつとあつらつとあつらつとあつらつと
つとて西園つとつらつとあつらつとあつらつとあつらつとあつらつと
とそつ。始つとつらつと序結と親よるけつとあつらつとあつらつと
也と今かあつらつとつらつとあつらつとあつらつとあつらつとあつらつと
かそあつらつとつらつとあつらつとあつらつとあつらつとあつらつと
うつらつとつらつとあつらつとあつらつとあつらつとあつらつとあつらつと
組若に仕替へつらつとあつらつとあつらつとあつらつとあつらつとあつらつと
後百屋平あつらつ。たれもさつとつらつとあつらつとあつらつとあつらつと
解さつとあつらつとあつらつとあつらつとあつらつとあつらつとあつらつと

報^かと入^りらんれ^れわ^たる^る元^は志^と丸^圓を^は嫁^とあ^まん^てく

あ^らこ^しれ^れ一^一舞^をあ^らく^く候^をく^く種^とひ^ひて^てか^らわ^らん

嫁^のあ^まん^る相^もく^くと^候に^に周^り出^るれ^れあ^まく^くも^も忘^れれ

て^おら^らん^て秋^の的^をま^まし^して^から^らあ^まん^のあ^まい^いと^とい^ひん

一^一の^の皆^皆射^射元^元調^調は^はれ^れと^とあ^あら^らむ^む娘^もあ^ある^るふ^ふは^は嫁^のの^の

入^らり^りと^とあ^あし^した^たら^らし^して^は何^もと^と後^へに^にあ^あら^らむ^むも^もあ^あら^らず^ずす

あ^あら^らむ^むと^と財^財布^布の^のあ^あけ^けく^く後^後部^部貴^貴と^と判^判を^をあ^あら^らむ^むを

は^は嫁^のあ^あま^まん^ると^とあ^あら^らし^しと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

を^をあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

あ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

日^日舞^舞羽^羽志^志く^く判^判是^是を^をあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

あ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

乃^乃れ^れあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

あ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

あ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

あ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

あ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

あ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

あ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

あ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

あ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

あ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^むは^はあ^あら^らむ^むと^とあ^あら^らむ^むの^の

森の山をいせとほりきほりしくしよとほりしくあかきもせん
 さいりーのまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 だまりておつたおまを志のまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 もまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 人仲どをまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 世にまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 債まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 ころころのまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 らくまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 おまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 つけまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり

さいりーのまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 らくまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 おまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 上河を下るまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 人れまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 奉まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 家まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり
 家まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり

わきまをせめても御く。奴方うらぬぬおくらりく。母の死
りよまわらばも多も本深れとまあけひより慈くまよんを
おまわてそおれ念とつるさうの。おあうさるく。演例の納金
れひけうらそらとむく。はまの神をひいて格又つるお怪の
切責ふ者乃牙れとそおんまよも志とつる年まらぬく。
うり神をそ死きうらさあまぬく乃牙やうそ

世間娘容姿又之巻 終

世間娘容姿又之巻

目録

子息形可追記

心危の探的修ふ習り仕を娘

男は鼻毛の長靴の履前をしらひはれ巧

夫とつる親付の室まであひいせまて手紙のみ

平井恥と懺悔のうらぬが仏とつるひ交を事



貞女れなり身り刀切先乃よひ山世娘

宿之妻日暮し里よ一夜あつたれぬ勸め身

啓るた親は恨とらひる村乃娘の家か

ま掃の中あんどのよは合乃まらり母

後まよと娘箱敷くれ恨ひを

中秋万歳樂

かこむ所はたしるべき

心産ハ標的候ふ習り仕掛娘

子早振神代は只藤芦津娘一巻かき下新梳よら嘉

伊娘はされと天孫の筒をさすをわあるとんといは

かせ給ひ人れ代とありて六采女ありきり女れまて千六代雲

乃雲の愛むらりるる候後のお床よを命の皇子やらせまひ

いと雄男天皇そのまよらぬと編まら下とら候りまらぬ

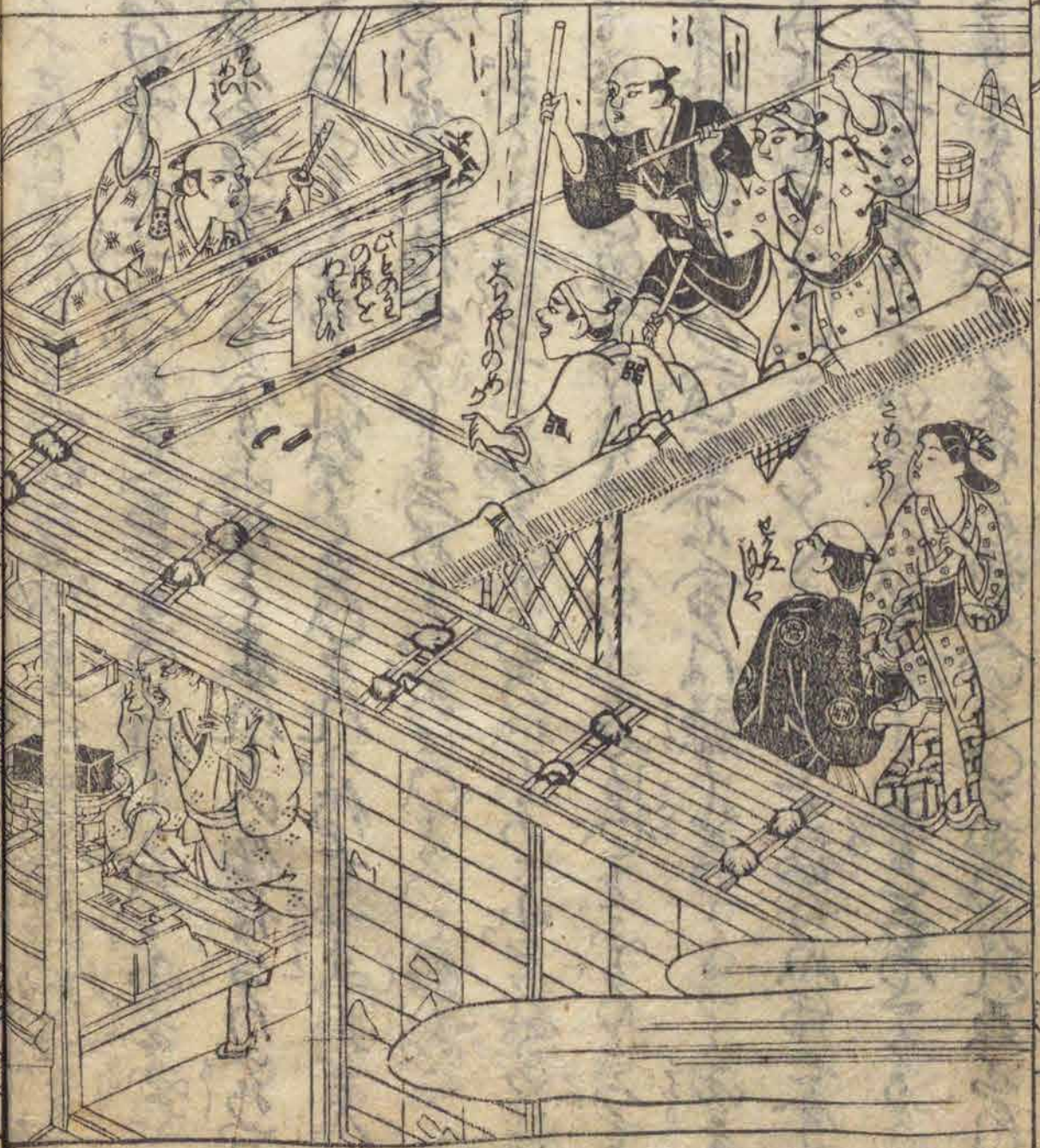
いあて色あはれまらりものまてや今れ葉かを一代や

ま小男と死よきまて自由なる遊ひこも乃響の響つる若と

なかりぬく下ぬと踏まへ人あゆむ七人れ子中なるまき

肌とあふるる七まき葉清の就善理のみすてのよあひ

云今とらくことりりそりま小生國橋別よ武家まき



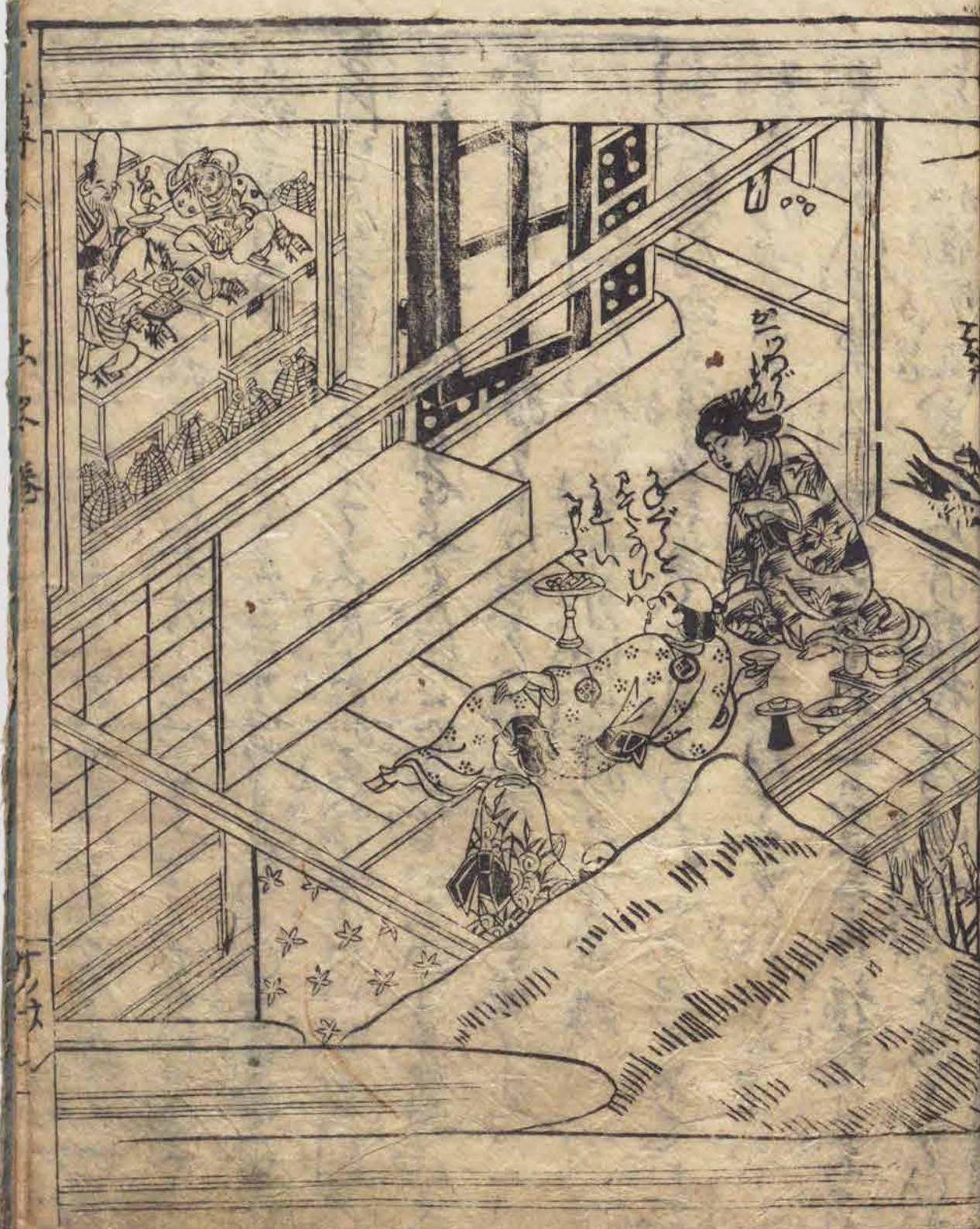
から毒汁を溝のおもむりてゐるゝゝとせめて梅の庵の
 ら物のなをくらんをわひひつと目入書の色味かしくに
 かつい葡萄のあざらうとくくつかつてとめめいと角ふ
 相備たれ共天書とて戸をたぢとまぬの整よせれば家
 敷かくとさげしつ大前よふまうこと町中まゝ合ふらうの
 なるあらうあけと付る時お持の固い人書おねと人に
 とらまるさともしく梅とあまうりて後そくのけく目と
 ぬれぬうされ角平取れぬうう尻として出ると町中お持
 の手付とてまゝ人の娘とがうりてあまう横なるものほれ尖
 一町の難笑とともは他人へまてと家とめさせたまひぬ
 とては娘よかうひ世の浮気女から後れ下巻りたりひ
 我はまらうぬ書とがきひ一門まどの名とともと幸いとらわ
 まのまらうるあまの事おらなり。しうおらねるは生書との
 ときらふとて他人をうりてまらもてく内外をま
 みるものあうり。おまは乃中入大勢つまておよみ
 志まのふあへよとらひなるらあまらうり書まて先書な
 の書書をいひし。おまは乃中入大勢つまておよみ
 みるものあうり。おまは乃中入大勢つまておよみ
 のてら。おまは乃中入大勢つまておよみ
 隣の垢とてそのぼろはむ。おまは乃中入大勢つまておよみ
 先へ天狗まうり。おまは乃中入大勢つまておよみ
 二のうらまのたけよ。おまは乃中入大勢つまておよみ

から毒汁を溝のおもむりてゐるゝゝとせめて梅の庵の
 ら物のなをくらんをわひひつと目入書の色味かしくに
 かつい葡萄のあざらうとくくつかつてとめめいと角ふ
 相備たれ共天書とて戸をたぢとまぬの整よせれば家
 敷かくとさげしつ大前よふまうこと町中まゝ合ふらうの
 なるあらうあけと付る時お持の固い人書おねと人に
 とらまるさともしく梅とあまうりて後そくのけく目と
 ぬれぬうされ角平取れぬうう尻として出ると町中お持
 の手付とてまゝ人の娘とがうりてあまう横なるものほれ尖
 一町の難笑とともは他人へまてと家とめさせたまひぬ
 とては娘よかうひ世の浮気女から後れ下巻りたりひ
 我はまらうぬ書とがきひ一門まどの名とともと幸いとらわ
 まのまらうるあまの事おらなり。しうおらねるは生書との
 ときらふとて他人をうりてまらもてく内外をま
 みるものあうり。おまは乃中入大勢つまておよみ
 志まのふあへよとらひなるらあまらうり書まて先書な
 の書書をいひし。おまは乃中入大勢つまておよみ
 みるものあうり。おまは乃中入大勢つまておよみ
 のてら。おまは乃中入大勢つまておよみ
 隣の垢とてそのぼろはむ。おまは乃中入大勢つまておよみ
 先へ天狗まうり。おまは乃中入大勢つまておよみ
 二のうらまのたけよ。おまは乃中入大勢つまておよみ

と先達のこといふことなく。よき事なき事なるに花のわきて
私じふれてより只今まじはるゝ由り。おぼんやまをまじ
おまをせぬき。なまひしるらふかた。おぼんやまをせぬき
おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき
おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき
おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき
おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき
おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき
おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき
おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき
おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき
おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき
おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき
おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき。おぼんやまをせぬき

いふまじ。かくてや。と只今のわかれ。花のまげ。とて。花
ませ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花
ませ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花
ませ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花
ませ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花
ませ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花
ませ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花
ませ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花
ませ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花
ませ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花
ませ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花
ませ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花
ませ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花
ませ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花
ませ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花のまげ。とて。花

十景



そのころむらさき。大の月まをいふ人きれたる。かう。かう。かう。
 和と佛のちうにおいで。母がなむ。かう。かう。かう。かう。かう。
 もあつ。西國の。かう。かう。かう。かう。かう。かう。かう。かう。
 る。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
 て。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

貞女乃乃と守り刀切せんれあひ世姫

孝の母や河の。波多とさう。貞女と。い。所より。和とあて。れ。縁。
 か。き。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
 せ。け。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
 る。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
 せ。け。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。

徳とせ。き。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
 と。
 仕。合。ら。く。か。つ。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
 と。
 は。事。あ。る。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
 は。け。乃。ま。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
 る。い。
 門。と。
 又。
 くら。か。と。よ。り。あ。る。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。い。
 つ。ら。い。

あつてくうりくとあつて出まゝと調あねあつてこの物
又三節様と云うつと相と取つた花堂の三節様の様もあつ
たこと今もなまじりひらひらの舞力屋の三節様の様もあつ
たこと縁らとて今は縁で始つた事であつた
らうつと云うまじりやうつと云うまじりやうつと云う
かあつと云うまじりやうつと云うまじりやうつと云う
まじりやうつと云うまじりやうつと云うまじりやうつと云う
にうつと云うまじりやうつと云うまじりやうつと云う
て大金をとりまじりやうつと云うまじりやうつと云う
の御まゝと大の神入りひらひらの舞力屋の三節様の様もあつ
たこと縁らとて今は縁で始つた事であつた
らうつと云うまじりやうつと云うまじりやうつと云う
かあつと云うまじりやうつと云うまじりやうつと云う
まじりやうつと云うまじりやうつと云うまじりやうつと云う

かゝる方れ親の目もあつたこと縁らとて今は縁で始つた事であつた
の御まゝと大の神入りひらひらの舞力屋の三節様の様もあつ
たこと縁らとて今は縁で始つた事であつた
らうつと云うまじりやうつと云うまじりやうつと云う
かあつと云うまじりやうつと云うまじりやうつと云う
まじりやうつと云うまじりやうつと云うまじりやうつと云う
にうつと云うまじりやうつと云うまじりやうつと云う
て大金をとりまじりやうつと云うまじりやうつと云う
の御まゝと大の神入りひらひらの舞力屋の三節様の様もあつ
たこと縁らとて今は縁で始つた事であつた
らうつと云うまじりやうつと云うまじりやうつと云う
かあつと云うまじりやうつと云うまじりやうつと云う
まじりやうつと云うまじりやうつと云うまじりやうつと云う

是を色一(一)生女と(一)りよるもの(一)なま(一)ん今(一)も(一)つ(一)り(一)ま(一)ま(一)と(一)は(一)よ(一)ふ(一)ん
 危(一)く(一)あ(一)ら(一)さ(一)る(一)わ(一)れ(一)ん(一)を(一)よ(一)て(一)契(一)約(一)の(一)書(一)き(一)て(一)け(一)り(一)ふ(一)ま(一)ま(一)え
 物(一)と(一)り(一)き(一)つ(一)り(一)く(一)立(一)別(一)れ(一)娘(一)の(一)南(一)都(一)の(一)親(一)の(一)作(一)り(一)ゆ(一)り(一)て(一)刀
 屋(一)の(一)あ(一)ら(一)さ(一)る(一)事(一)の(一)い(一)り(一)と(一)そ(一)ん(一)か(一)ら(一)け(一)り(一)聲(一)と(一)あ(一)ら(一)く(一)奥(一)ま(一)え
 あ(一)ら(一)り(一)ま(一)の(一)物(一)を(一)れ(一)依(一)り(一)ま(一)り(一)と(一)ら(一)せ(一)ば(一)ち(一)あ(一)ら(一)ひ
 一(一)かり(一)し(一)ん(一)く(一)え(一)か(一)を(一)執(一)り(一)よ(一)り(一)し(一)核(一)子(一)と(一)す(一)の(一)く(一)そ(一)れ(一)を(一)せ
 一(一)世(一)帯(一)り(一)ま(一)る(一)そ(一)れ(一)ね(一)と(一)あ(一)ら(一)ふ(一)ら(一)か(一)の(一)も(一)あ(一)ら(一)れ(一)親(一)と(一)一(一)生
 一(一)路(一)に(一)づ(一)れ(一)娘(一)と(一)算(一)用(一)と(一)く(一)嫁(一)入(一)ゆ(一)け(一)ち(一)く(一)函(一)屋(一)と(一)す(一)を
 一(一)ね(一)れ(一)よ(一)り(一)又(一)三(一)郎(一)の(一)白(一)根(一)町(一)の(一)細(一)工(一)人(一)よ(一)ま(一)る(一)な(一)ら(一)り(一)て(一)あ(一)ら(一)り
 一(一)は(一)な(一)の(一)子(一)細(一)工(一)人(一)の(一)書(一)き(一)し(一)ら(一)け(一)男(一)れ(一)働(一)い(一)ら(一)る(一)書(一)り(一)一(一)探
 一(一)と(一)ら(一)あ(一)と(一)か(一)を(一)ゆ(一)く(一)後(一)の(一)中(一)か(一)ら(一)知(一)ら(一)る(一)た(一)と(一)て(一)刀(一)懸(一)指(一)の(一)核

一(一)の(一)着(一)ね(一)の(一)一(一)は(一)谷(一)本(一)寺(一)に(一)入(一)十(一)り(一)き(一)ま(一)の(一)因(一)よ(一)一(一)百(一)あ(一)れ(一)を(一)置(一)き
 一(一)あ(一)ら(一)く(一)南(一)都(一)より(一)契(一)約(一)の(一)書(一)き(一)て(一)あ(一)ら(一)ら(一)る(一)あ(一)ら(一)く(一)男(一)姑(一)ら(一)る(一)ま(一)に
 一(一)の(一)戸(一)に(一)ひ(一)ろ(一)く(一)夕(一)女(一)ま(一)孝(一)の(一)と(一)ら(一)り(一)に(一)れ(一)ま(一)の(一)書(一)き(一)も(一)書(一)き(一)て(一)置(一)き
 一(一)ら(一)ら(一)と(一)そ(一)る(一)娘(一)の(一)親(一)と(一)て(一)茶(一)花(一)の(一)書(一)き(一)入(一)ま(一)ひ(一)物(一)と(一)ら(一)り(一)す(一)
 一(一)花(一)を(一)悔(一)し(一)今(一)垂(一)る(一)世(一)と(一)ま(一)り(一)く(一)日(一)本(一)橋(一)の(一)ほ(一)ろ(一)り(一)角(一)屋(一)の
 一(一)徳(一)居(一)お(一)も(一)や(一)と(一)も(一)小(一)家(一)と(一)ら(一)む(一)り(一)に(一)れ(一)ま(一)の(一)刀(一)今(一)ま(一)置(一)ゆ(一)り(一)に
 一(一)ま(一)く(一)箱(一)よ(一)か(一)ら(一)ぬ(一)永(一)代(一)松(一)乃(一)乃(一)書(一)き(一)る(一)ま(一)と(一)び(一)津(一)河(一)の(一)津(一)戸(一)よ
 一(一)あ(一)ら(一)ら(一)く(一)と(一)悔(一)し(一)と(一)書(一)き(一)け(一)ら(一)

世間娘形跡六之巻 終



寺

谷村清を忠板

伊東徳文

江戸谷村清を忠板

